

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：令和7年7月15日(火)
(2025年)



地域企業紹介 No. 93

権田金属工業株式会社

代表取締役 権田有紀子氏

「これからも社内外から共栄を 望まれる会社に」

銅ブスパー、銅・黄銅丸棒、メッキ用銅アノードなどの伸銅品を製造する権田金属工業株式会社の権田有紀子社長を相模原市中央区宮下の本社工場へ訪ねました。

人類が初めて手にした金属“銅”は、古くから私たちの生活をはじめ、文化の発展に大きく貢献してきた。長い年月をかけて築かれた銅の加工は、今なお自動車、半導体、電気設備の部品などとして、私たちの生活や産業の発展に大きな役割を果たす。伸銅品とは、純銅や銅合金を板・条、管、棒などの形状に加工した製品をいう。また、銅は電気伝導や熱伝導に優れ、加工が容易であり、耐食性があるなど数々の特性を持つ。これらの特性から現代では電気具や熱交換器、電動モータなどに欠かせない材料となっている。こうした伸銅品の発展と共に、権田金属工業も歴史と伝統を築いてきた。1918年（大正7年）創業以来、“良品共栄”を企業理念としている同社は、良品の提供により社会の発展に貢献し、お客様・仕入先様・地域の皆様と共に繁栄し続けること望んでいる。

主力製品である銅ブスパーは、熱間圧延材を冷間圧延で仕上げしており、冷間ロール幅の自由度が高く、きめ細かな幅寸法の製造が可能だ。材質はタフピッチ銅と無酸素銅がある。特に国内でも製造できる会社が少ない150mm以上のブスパーを製造できる強みを持つ。また、圧延と鍛造・旋盤加工で製造する銅丸棒・黄銅丸棒は、製造範囲が広く寸法精度に優れている。材質はタフピッチ銅と無酸素銅に加え、快削黄銅、カドミレス黄銅、ネーバル黄銅など幅広い。銅ブスパー同様に他社では製造できない大型サイズの製造を得意としている。加工品としては鍛造・加工品部門では継ぎ目のない銅リングで国内の電車のモータ用リングを製造し、全国約70%の高いシェアを有している。同社は伸銅品製造において、技術力が高く高品質な製品が多い国内市場においてもトップクラスの存在感を持つ。

そんな同社を現在率いるのが、四代目社長の権田有紀子社長だ。大学卒業後、非鉄金属の大手商社で総務・営業を経験し、2018年4月に同社に入社。1年目は製造現場での業務に専念し、2年目以降は営業部担当部門で経験を重ねる。先代であり父である権田源太郎氏逝去により、2022年12月に急遽代表取締役社長に就任された。先代から今後3年くらいで事業承継を進めていこうかと話していた折に、源太郎氏に末期がんが見つかる。

代表取締役：権田 有紀子（ごんだ ゆきこ）
本社所在地：相模原市中央区宮下1丁目1番16号
従業員数：80名
事業内容：銅ブスパー、銅・黄銅丸棒、メッキ用銅アノード、
銅・黄銅リングの製造・販売、不動産賃貸
URL：<https://gondametal.jp/>

そうした状況から、次第に有紀子氏が社内決裁業務や金融機関交渉など社長業務を代行する場面が増え、必然的に社長職務を行うようになったそうだ。とはいえ社長としてやるべき業務にほとんど触れないまま就任したため、初年度はあっという間に過ぎたと有紀子氏は振り返る。社長就任直後に一番苦労したのは、創業の地である横浜駅西口に所有するビルの建て替え事業。先代と前総務部長が二人で 13 年かけて進めたプロジェクトだが、竣工前に両名とも亡くなってしまったため、どうすればよいのか分からず本当に困ったそうだ。そうした中、施工会社である大林組や、共同建て替え事業者である UR の方々が事細かに教えてくれたので助かったという。上棟時には先代の思いも込めて柱に自分の名前と源太郎氏の名前を並べて書き込んだ。こうして、2023 年 12 月にイオンモールが施設運営を行う「横浜ヴェールスクエア CeeU」が竣工した。施設名である CeeU は、同社の主力製品である「銅」の元素記号「Cu」と友人や親しい人への挨拶「See You」(またね)を掛け合わせたもの。新たな人・モノ・体験との出会いが生まれ、横浜駅西口エリアに愛着を持ち、それぞれの思いが伝わり・交わる場となることを目指している。就任直後から困難にも負けず、大きなプロジェクト事業を成し遂げた。

そんな権田社長の趣味は読書と観劇。読書は主にミステリーが好きで、観劇は文楽(人形浄瑠璃)とバレエを家族や友人たちと一緒に楽しんでいる。またゴルフをする機会もあり、コースに出る前には、関連会社が運営する「ボールパーク」で練習するそうだ。距離も長くロングヒッターにも最適で、ゴルフスクールや試打会なども充実している。

今年、創業 107 年目を迎える権田金属工業株式会社。権田社長は、「私たちの強みは”顧客の要望に細かいところまで応えられる”ところ。当社は比較的多品種少量生産になるため、お困りごとを営業部門がヒアリングし、課題解決に即応できることが強み。これからも新規サイズの拡充など新しいことにチャレンジしてお客様の要望に応えたい。これまで私たちは経営危機があるごとに多くの取引先に助けられており、いかに長く会社を続けられるかというより、“何年たっても従業員と取引先に存続を望まれる会社であり続けたい”」と語る。これからも新たなことに挑戦し続ける権田有紀子社長と社員の皆さんに心からエールを贈ります。

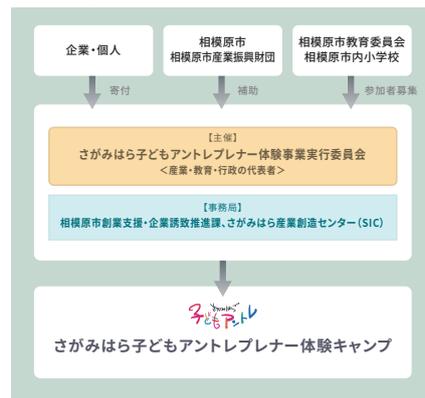
23 回目を迎えるさがみはら 子どもアントレプレナー体験事業

市場の変化、資金調達、人材確保など、予測不能な課題に直面する起業家は、どんな場面でも前向きに挑戦し、柔軟に対応して苦難を乗り越えます。そのマインドこそ起業家精神＝“アントレプレナーシップ”です。

リスクテイクや挑戦を肯定する文化が弱い日本ではアントレプレナーシップ教育が遅れているとの指摘が多い中、相模原市では平成 13 年から 23 回に渡り「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業(以下、子どもアントレ)」を通じて、地域の未来を担う人材育成を行っています。

相模原市で実施する子どもアントレの特徴は、行政と地域が一体となって本事業を持続的に行っている点にあります。運営資金は相模原市の「青年起業家育成基金」の他、毎年 100 社を超える地域の企業や個人からの寄付によって支えられています。また、主催者となる「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業実行委員会」は、産業界、教育分野、行政のメンバーによって構成されています。委員会

では毎年、企画内容が検討され、実施後の振り返りや次年度に向けたフィードバックを行っています。



SIC も事務局として参画しています

令和 7 年度は 8 月 5 日、8 日から 10 日までの 4 日間、48 名の小学 5 ～ 6 年生が参加します。毎年変わらないのは、「失敗を恐れず挑戦する心」、「自分の考えで行動する力」、「チームワークの大切さ」、「お金の価値」の 4 つの基本が掲げられることです。参加する子どもたちは、会社設立や事業計画の策定、融資交渉、ものづくり、商品販売、決算というプロセスを通じて、アントレプレナーとして大切な

ことを体験し、学びます。

開催期間中、大学生たちもこの事業を支えています。本事業が 10 年を超えたころから、小学生の頃に参加し、当時の学生スタッフに憧れ、今度は運営側で参加したいという学生も少なくはありません。これまでの継続的な活動が、さらなる“エコシステム”の好循環へと発展しています。



参加人数延べ 1,000 名超の相模原市民の誇りとも言える、さがみはら子どもアントレプレナー体験事業。子どもたちにとっても、主催者や運営スタッフにとってもアントレプレナーシップを養う“暑い夏”が、今年もやってきます。

「ウェルビーイング経営って、理想としては理解できるけど、実際には難しそう…」

そんな声は少なくありません。制度だけ整えても社員の心に届かず、「やってみただけで定着しなかった」というケースもある中で、今もなお着実に試行錯誤を続けているのが、AZA エンジニアリング株式会社（神奈川県相模原市中央区）です。

AZA エンジニアリング社は、全社員 35 名ほどの製造業の会社で、健康経営の取り組みを土台に、従業員を最も大切にする「従業員第一主義」を実践している企業です。その取組が奏功し、たとえば、メンタルヘルスに起因する休業者ゼロを達成したほか、求人募集を出す際にも毎回多くの応募が集まるなど人材の定着や獲得で確かな成果をあげています。

そんな同社が、さらに一步踏み込んで取り組んでいるのが「ウェルビーイング経営」です。きっかけは、組織の状態を客観的に把握するために実施したウェルビーイング診断でした。そこからは、「もっとチームのつながりを感じたい」「自分の強みを活かせる仕事したい」といった従業員のニーズが見えてきました。

経営陣はこの結果を受けて、若手社員も巻き込みながら、「やりがいのある仕事ってどんなこと?」「成長を感じられる瞬間って、

いつだろう?」といった問いをテーマに、対話型の社内会議やワークショップを実施。立場を超えたフラットな対話の場をつくることで、組織全体に「自分たちで職場を良くしていこう」という雰囲気や育まれ始めています。もちろん、すべてが順調にいったわけではありません。取り組みの中には空回りすることもありましたが、それを「うまくいかなかった」と終わらせるのではなく、「どこに工夫の余地があるか?」とふり返りを行っています。まさに、「失敗も含めて組織の学び」ということがいえるのではないのでしょうか。

AZA エンジニアリング社のように、ウェルビーイング経営に挑戦する企業に共通する 4 つのポイントをまとめてみます。

- ①現状を見える化する
診断やアンケートなどで、“いまの組織の状態”を客観的に捉える。
- ②経営者自身がコミットする
経営層が旗を振り、社員と向き合う姿勢を示すことで信頼が生まれる。
- ③社員を巻き込む・一緒に取り組む
制度や仕組みを“与える”のではなく、対話を通じて共につくっていく。
- ④失敗を恐れず試行錯誤を重ねる

うまくいかないことも“経験値”として蓄積し、次に活かす柔軟さが大切。

ウェルビーイング経営に完成形はありません。だからこそ、「私たちらしい幸せな職場って、どんなかたちだろう?」と問い続けることが、企業の未来を支える力になります。

今回は、こうした取り組みの“先”にある、これからの企業経営のあり方について考えていきます。中小企業だからこそ実現できる、しなやかで力強い経営の可能性に迫ります。



中小企業診断士、ポジティブ心理学コンサルタント、
国家資格キャリアコンサルタント、経営情報修士 (MBA)
株式会社B-nO Consulting
代表取締役
漆間 聡子 氏

ポジティブ心理学を経営に取り入れたウェルビーイング経営の実践を通じ、企業の成長と社員の幸福度向上に貢献することを使命として、2019年に株式会社B-nO Consultingを設立。前職では文系SEとして、主にFA（ファクトリーオートメーション）や組込システム開発に従事。ダブルワークでSE時代にキャリアカウンセリングを行い、実績を重ねてきた。ビジネススクールで経営学を学び、「人」を中心に据えた企業経営を提唱している。

手料理 初雁

西橋本の SIC-1 Startup Lab. から徒歩 7 分、店主鈴木さんこだわりの手料理がたのしめるお店。創業から 56 年が経ち、2 年前から現在の店舗で営業を始めた。店名の初雁は、渡り鳥である「雁(がん)」をお客様に例えて、また戻ってきてほしいことに由来しているとのこと。

今回はランチで、人気の選べる定食を注文。好きなおかずを 1~3 品選ぶことができる。新鮮な刺身 3 点盛はもちろん、鶏唐揚げや出し巻き玉子も丁寧に作られており、味わい深い。

夜は海鮮ユッケ、なめろうなどが人気で、お酒との相性抜群のおつまみが充実している。地ビールや日本酒、



選べる定食 (3種盛)



選べるおかず



昼も夜も人気の海鮮味噌ユッケ

オリジナルの耐ハイもそろい、手作り料理と魚介の旨みをしっかり味わえる一軒だ。ごちそうさまでした。(大谷)

【住所】神奈川県相模原市緑区西橋本 2-26-14 森崎店舗 A

【TEL】042-773-3291

【営業時間】ランチ 11:30~14:00(L.O.13:30)

ディナー 17:00~23:00

【定休日】毎週日曜日、第一・第三月曜日



笑顔が素敵な店主と女将さん



子どもたちが心を込めて 作った商品を販売します！



日 時 令和7年(2025年)8月10日(日)
10:45～12:15(予定) ※売り切れ次第終了

販売場所 アリオ橋本店 アクアガーデン(JR・京王線橋本駅 徒歩5分)

子どもアントレとは？

「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」は小学生を対象に、初めて出会う仲間と「会社設立、事業計画書の作成、融資交渉、仕入・製造、販売、決算」という会社経営のプロセスを疑似体験するものです。

協賛社(者)の皆さんが子どもアントレを支えています。

本事業は、子どもたちの負担を軽減するため、趣意にご賛同くださった多くの皆様からご協賛をいただいています。無限の可能性にあふれた子どもたちの育成に、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

【協賛金】1口1万円

【後援】相模原市、相模原市教育委員会、
相模原商工会議所、(公財)相模原市産業振興財団

【問い合わせ先】さがみはら子どもアントレプレナー
体験事業実行委員会 事務局 担当：上野

【詳細はこちら】



詳しくは、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

令和7年7月時点 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

7月29日(火)	中小製造業必見!自動化・ロボット導入ははじめの一歩!
8月5日(火)	さがみはら子どもアントレプレナー体験キャンプ
8月8日(金)～8月10日(日)	
9月1日(月)	The HINT69(仮)

入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (令和7年7月15日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部屋	空室数	賃料/月額 (共益費込・消費税込)
SIC-1 Startup Lab.	〇スモールオフィスB (17.3㎡) 2	70,620円

最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

中小製造業必見！自動化・ ロボット導入 はじめの一歩！

～うまくいく自動化の始め方＆進め方とは？～



「自動化に興味はあるけど、何から始めたらいいかわからない…」そんな方へ。成功の秘訣や導入事例を交えて、準備・進め方をわかりやすくご紹介します。希望者には個別相談も実施。お気軽にご参加ください！

【日 時】令和7年7月29日(火) 15:00～16:30(受付開始:14:40)

【会 場】サン・エールさがみはら(2階・第1研修室)

※所在地:相模原市緑区西橋本5-4-20

【定 員】30名

【参加費】無料

【対 象】自動化・ロボット活用に関心のある企業等

※参加者の所属・役職や企業の規模・所在地は不問

【お申し込み】



【お問い合わせ】さがみはらロボット導入支援センター

(事務局:さがみはら産業創造センター担当:樽川・清水)

SIC 経営者交流会を 行いました！



7月8日 SIC 入居企業の経営者や責任者の方向けの経営者交流会を開催しました！



当日は名刺交換や自社の紹介等を行いました。新たなつながりが生まれるなど、良いきっかけづくりとなりました。

編集後記

第1回子どもアントレの参加者で、書記と会計を担当した榎田社長。進学時には経営の道に進む考えはなく、後継を見据えて入社することになった際は戸惑ったとか。しかし入社から現在に至る急激な環境の変化の中でも、アントレプレナーシップは持ち続けたそうです。皆さんは子どもの頃の経験が活きたと感じることはありますか？



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>